

第二篇 戦役間ニ於ケル兵器ニ関スル事項

戦役間ニ於ケル兵器ニ関スル事項ハ砲兵課ノ主要ナル業務ニシテ其概況ハ既ニ總論ニ於テ之ヲ説述セリ而シテ是等事項中其ノ常務ニ属スルモノハ一切之ヲ省畧シ此ニハ主トシテ常務若ハ規定計画ニ属セサル事項中其重要ナルモノヲ摘録スルコト、セリ

一 野戦重砲兵隊ノ編成 明治三十七年度動員計画ニ依レハ野戦重砲兵ハ單ニ二ヶ中隊ヲ編成スルコト、ナリ居リシモ時局切迫スルニ及ヒ參謀本部ヨリ同砲兵五ヶ中隊ノ編成(十二冊榴弾砲)ヲ照會シ来レリ依リテ新ニ三ヶ中隊分、材料ヲ整備スルノ必要起レリ但シ火砲ハ曩ニ克

陸 二六

屬伯會社ヨリ購入シタルモノ現在スレモ其他
諸材料ハ凡テ是ヲ新ニ製作スルカ若ハ要
塞備附品及在庫品ヲ應用セサルヘカラス
是カ為メ先ツ材料準備表ヲ調製シ尚ホ
材料整備要領書ヲ作り是ニ依リテ兩砲兵
工廠并ニ兵器本廠ヲシテ極力製作及整備
ニ任セシムルコト、セリ尚ホ材料中制式未定ニ
シテ製作、調弁共ニ困難ナルモノハ技術審査
部ト交渉シ適宜處弁セシメタリ、二月八日遂
ニ開戦シ同八日及同九日ニ於ケル海軍ノ動作
能ク敵ノ機先ヲ制スルヲ得ルヤル愈々野戰重
砲兵隊出征ノ準備ヲ急クニ至レリ而シテ該
材料ハ兩砲兵工廠及兵器本廠ノ努力ニ依リ

三十七年三月辛フシテ整備スルコトヲ得五ヶ中隊
ヨリ成リ野戦重砲兵聯隊ハ第一軍ニ属シテ
出征スルコトヲ得タリ

送丙第七五号(明治三十七年一月二十一日)野戦

重砲兵聯隊編成準備要領参照

送丙第一五三号(明治三十七年二月十三日)野戦重

砲兵聯隊編成準備要領書細則参照

送丙第一二二号(明治三十七年二月五日)野戦重砲

兵聯隊所要兵器表并野戦重砲兵聯隊兵

器貯藏區分表参照

野戦重砲兵隊、編成ハ如此、困難ヲ極メ彈藥

ノ如キモ同隊ヲ搭載セル船舶ヲ大阪ニ寄港セ

シメ辛フシテ之ヲ支給スルヲ得タリシカ鴨緑江、

會戰ニ於テ偉大ノ功ヲ奏シ黒木第一軍司令官ハ特ニ此奏功ヲ大本營へ電報スルニ至レリ鴨緑江會戰ニ於ケル野戰重砲兵ノ出現并ニ其偉大ナル奏功ハ實ニ彼我兩軍ノ意想外ニ出テタリ

先之(開戰前)砲兵謀ニ於テハ今日ノ戰爭ニ野戰重砲兵ノ必要缺クヘカラサルヲ慮リ材料ノ現存スルヲ利用シ成ルヘク多クノ部隊ヲ動員スルノ計畫ヲ立テシメト欲シ屢々參謀本部當局者ト交渉スル所アリシト雖モ參謀本部ハ得員其他ノ事ヲ云々シ僅ニ二個中隊ノ動員計畫ヲ定ムルニ止マレリ然ルニ實際開戦スルニ至レハ果シテ野戰重砲兵隊増加案

ヲ照會シ来ル之カ為メ平時ヨリ準備シ得
ヘカリシコトヲ戰時倉皇ノ際ニ整理セサル
ヘカラサルコト、為レリ遺憾ナリシト云フヘシ

三十七年四月二日重砲兵聯隊ノ補充用并ニ
更ニ編成スヘキ重砲兵隊ヲ充用トシテ充虜
伯會社ヨリ左ノ彈藥ヲ購入スルコト、為レ
リ但シ現品ハ七月ヨリ十二月迄ノ間ニ於テ逐
次受領ノ筈ナリ

(1) 十二冊米榴彈砲用榴霰彈々体 二四三〇〇個

(2) 十五冊米榴彈砲用榴霰彈々体 一三六〇〇個

三十七年四月十六日重砲兵聯隊及攻城廠用引
起トシテ十冊半加農十六門令ノ材料ヲ兵工廠

ハ注文ス

三十七年五月十四日晨ニ出征セル野戦重砲兵聯隊、編成ヲ改メ従来二個大隊（五個中隊砲数二十門）ヨリ成ル聯隊編成ナリシモノヲ三個大隊（第一大隊ハ三個中隊砲数十二門第二第三大隊ハ各二個中隊砲数各八門ニシテ聯隊ノ砲数總計二十八門）ヨリ成ル聯隊編成トシ之ヲ旅順攻囲軍ニ加フルコト、為レリ

送丙第二七三号（三十七年五月十四日）野戦重砲

兵聯隊編成改正準備要領参照

送丙第二七五号（三十七年五月十四日）野戦重砲

兵聯隊兵器表参照

七個中隊ヲ以テ聯隊ヲ編成セシハ他ニ意味アルニ非ス當時我邦ニ有セシ十二冊榴弾砲ヲ

拳ケテ僅ニ四門中隊七個ヲ編成シ得ルニ過ギ
 サリシヲ以テノミ
 此ニ記臆スヘキハ當時各軍ニ於テ大ニ十二冊
 榴彈砲ノ配属ヲ希望シタルノ一事ナリトス第一
 軍ハ鴨綠江ノ會戰ニ於テ十二冊榴彈砲ノ偉
 大ナル効力ヲ認メ前進ニ當リ引續キ之ヲ第
 一軍ニ属セシメラレコトヲ請求シ又旅順攻
 圍軍ハ徒歩砲兵ノ有スル火砲概シテ劣弱ナル
 力為メ頻リニ十二冊榴彈砲隊ノ配属ヲ望メリ
 於此手野戰重砲兵聯隊ヲ區分シ其第一大
 隊(三個中隊砲數十二門)ヲ獨立大隊トシテ第一
 軍ニ属セシメ其ノ第二第三大隊(砲數計十六門)
 ヲ以テ聯隊ヲ編成シ之ヲ旅順方面ニ送ル(シトノ

陸
 軍
 三二

説アリシモ種々研究、結果三個大隊全部ヲ
旅順方面ニ送り成ルヘク該方面ノ砲数ヲ増加
スルニ決セリ
旅順要塞ノ陥落スルヤ直クニ野戰重砲兵聯
隊ヲ北進セシムルノ議アリ三十八年一月十三日野
戰重砲兵聯隊ノ編成ヲ改正シ三中队ヨリ成ル
大隊二隊即チ六中队ヲ以テ聯隊ヲ編成シ各大
隊ヲ三中队ヨリ成ル同一ノ編成トシ且聯隊ニ四縱
列ヨリ成ル彈藥大隊一隊ヲ屬スルコト、シ之ニ
依リ野戰重砲兵聯隊ニ益々活動ノ性質ヲ帶
ハシムルコト、為レリ七中队ノ聯隊ヲ六中队ニ改
メタルハ單ニ兩大隊ノ編成ヲ同一ナラシムルヲ目
的トセシニ非ス克式十二冊榴彈砲ノ車軸頻リ

ニ破損シ砲車ニモ亦破損ノ箇所多ク辛クシテ六
中隊ヲ編成シ得タルニ依レリ

送丙第八号(明治三十八年一月十三日)野戦重砲兵聯隊
編成改正要領参照

三十八年四月二十七日十五冊榴弾砲十六門ヲ以テ二大
隊(一大隊ハ二中隊、一中隊ハ十五冊榴弾砲四門)ヨリ
成ル野戦重砲兵聯隊一隊ヲ編成シ之ニ二縱列
ヨリ成ル彈藥大隊一隊ヲ属ス

送丙第一〇三号(三十八年四月廿七日)野戦重砲兵第
二聯隊及徒歩砲兵第三独立大隊編成要領参

照

送丙第一〇四号(三十八年四月廿七日)野戦重砲兵第
二聯隊及徒歩砲兵第三独立大隊編成要領細

則参照

三十八年六月廿四日砲身後座式十二珊榴彈砲二十四門ヲ以テ野戰重砲兵第三聯隊ヲ、砲身後座式十五珊榴彈砲十六門ヲ以テ野戰重砲兵第四聯隊ヲ編成ス前者、編成ハ畧シ野戰重砲兵第一聯隊ニ同シ但シ彈藥大隊ハ二縱列ヨリ成ルコト、セリ後者、編成ハ全ク野戰重砲兵第二聯隊ニ同シ

送丙第一三九号(明治三十八年六月廿四日)野戰

重砲兵第三第四聯隊編成要領参照

送丙第一四〇号(明治三十八年六月廿四日)野戰

重砲兵第三第四聯隊編成要領細則参照

既ニ述ブレカ如ク野戰重砲兵隊ハ三十七年度動員

計画ニ於テハ僅ニ二中队ヲ編成スル若ナリシヲ日露關係切迫ノ頃ニ及ビ五中队編成ノ計画ニ改メ三十七年五月ニ於テ之ヲ七中队編成トシ三十八年四月新ニ第二聯隊ヲ其ノ六月更ニ第三、第四聯隊ヲ編成シ結局戰役間ニ於テ新タニ四個聯隊ヲ編成セリ左ニ三十七年度動員計画当初ノ二個中队ノ砲数ト三十八年六月ニ於ケル四個聯隊ノ砲数トヲ對照シテ一覽ニ便ナラシム

砲種	令	三十七年度計画	三十八年六月現在	計画外ノ増加
十二榴	八	八	四八	四〇
十五榴	八	八	三二	三二
計	八	八	八〇	七二

此間ニ於ケル兵器材料ノ整備ハ實ニ砲兵課苦心

陸 二五

ノ最モ存スル処ニシテ砲車コソ外國購買品ヲ用ヒ
タレ、彈藥其他ノ材料、人員ノ配合等ハ戰地及
内地各部隊ト直接間接ニ交渉シ其決定ニ
至ルマテニハ常ニ多大ノ困難ヲ極メタルモノナリ
今回ノ實驗ニ鑑ミ特ニ此ニ記スヘキハ將來ニ於
テル野戰重砲兵隊ノ所要數并ニ準備材料
ノ事ナリトス三十七八年ノ戰役中野戰重砲兵
聯隊ノ編成ヲ四個ニ止メタルハ之ヲ以テ足レリト
シタルカ爲メニ非スレテ材料ヲ整備スル能ハ
サルカ爲メ止ムヲ得サリレニ出ヅ當時材料ノ供
給ニシテ十分ナリセハ各軍ニ少クモ二箇
野戰重砲兵聯隊ヲ配屬スルコト、爲リシヤ疑
ヲ容レス要スルニ平時ノ計畫ハ之ヲ廿七八年戰

二徴スルモ之ヲ今回ノ戦役ニ考フルモ皆小極ニ過
 キタルノ弊アリシヲ知ルヘシ殊ニ注意スヘキハ今回
 ノ戦後間露軍ハ多数ノ野戦重砲兵隊ヲ有
 セサリシモノ、如ク其砲種モ亦我野戦重砲兵
 隊、有スル火砲ニ比シ劣等ナル十五珙野戦砲
 砲ノミナリシモノ、如キコト是ナリ然レトモ露軍ハ
 必スヤ今回ノ實戦ニ鑑ミ将来ノ戦争ニ多
 数ノ重砲兵隊ヲ使用スルコト、為ルヘキカ故ニ
 我軍ニ於テモ亦之ニ當ルカ為メ否之ヲ凌駕
 スヘキカ為メ多数ノ野戦重砲兵隊ヲ動員ス
 ルノ計画ナカレヘカラス之ヲ今回ノ例ニ徴スルニ
 六個師団内外ヨリ成ル一軍ニハ少クモ砲数二十
 四門内外ヨリ成ル野戦重砲兵聯隊三個ヲ配

陸 二四